

本日お伝えしたいポイント

Point 1

**強みは
ガスセンサの研究開発力**



ガスセンサの研究開発から、
製品の開発・製造まで一貫し
て行うガス検知器・警報器
メーカー

Point 2

売上高 過去最高を更新



昨年度の売上高は372億円で、
過去最高を更新
設立以来黒字経営・右肩上が
りの成長を継続

Point 3

**水素などの
クリーンエネルギーの
安全な利用に貢献**



トヨタ「新型MIRAI」に当社
の車載用水素ディテクタが採
用

「世界中のガス事故をなくす」

国内ではガス警報器の普及とともにガス事故は減少
しかし、世界では多くのガス事故が起こっている

ガス事故死者数

国内

都市ガス・LPガスの
消費段階のガス事故死者数

2 人 ※1
(2022年1～12月)

※1 2023年 経済産業省発表

海外

住宅ガス事故死者数

中国 **35 人** ※2 (2022年4月～2023年3月) アメリカ **62 人** ※3 (2022年1～12月)

※2 中国安全委員会発表

※3 当社調べ

会社概要

社名	新コスモス電機株式会社
本社	大阪市淀川区三津屋中2丁目5番4号
代表者	高橋 良典
設立	1960年6月
資本金	1,460百万円
連結子会社	国内4社、海外8社
従業員数	連結：948名、単体：467名（2023年9月30日現在）
事業内容	ガスセンサ開発およびガス警報器・ガス検知器・ニオイセンサの開発・製造・販売・メンテナンス

業務用携帯型 ガス検知器関連



工業用定置式 ガス検知警報器関連

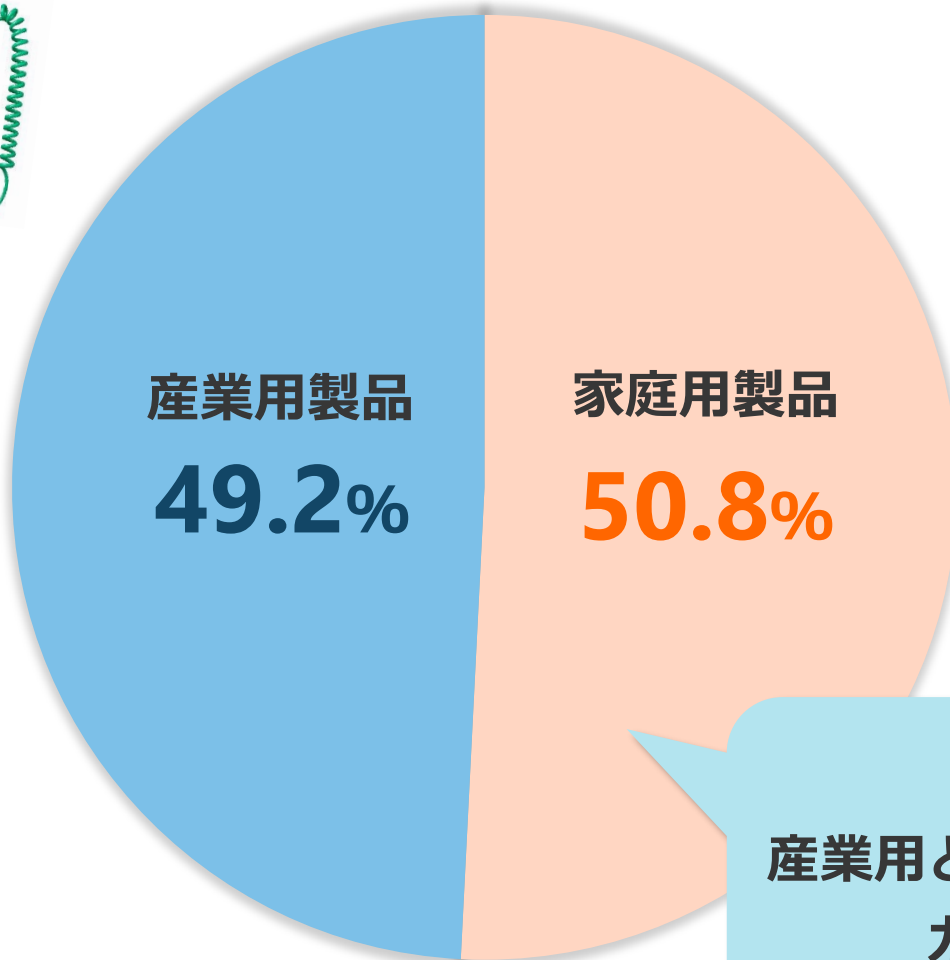


その他



二オイセンサ 空気質測定

売上高比率



家庭用ガス警報器関連



LPガス警報器 都市ガス警報器



一酸化炭素検知機能付き
火災警報器

国内で唯一
産業用と家庭用の両方を手掛ける
ガス警報器メーカー

Point 1

強みはガスセンサの研究開発力

ガスセンサから製品まで一貫生産



ガスセンサの開発

ガス警報器・ガス検知器の開発

▼ガスセンサの研究開発施設
「コスモスセンサセンター」 (兵庫県三木市)



ガスセンサ紹介

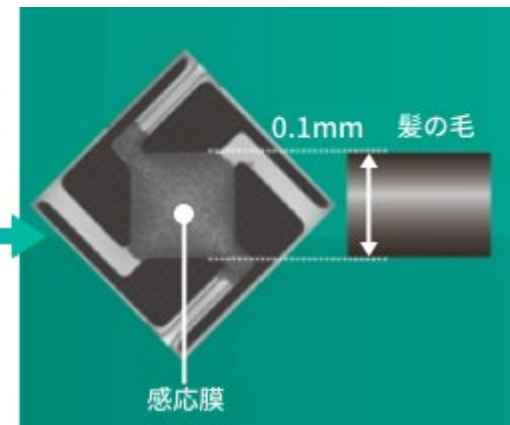
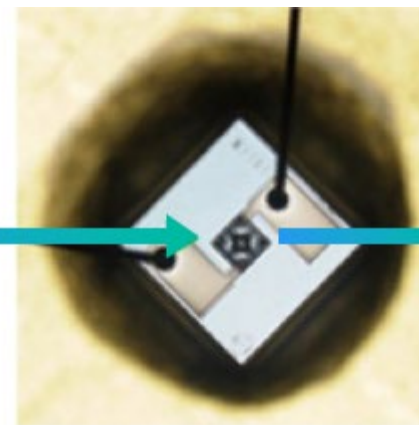
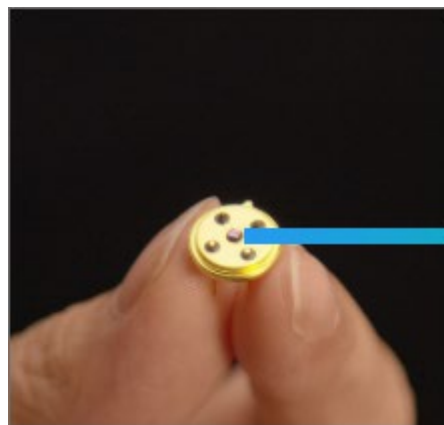


熱線型半導体式センサ

家庭用都市ガス警報器にも搭載
当社独自のセンサ
可燃性ガスを低濃度で素早く検知

MEMS技術を応用した ガスセンサ

電池式ガス警報器に搭載
MEMS技術を用いることで
小電力化



他にもガスの種類や濃度に応じさまざまな検知方式があります

家庭用ガス警報器市場

- 1964年に当社が世界で初めて開発、以来国内シェアNo.1
- 全国の都市ガス会社・LPガス会社が採用
- IoTガス警報器など付加価値を持たせた製品を展開
- アメリカをはじめ世界中で需要が拡大

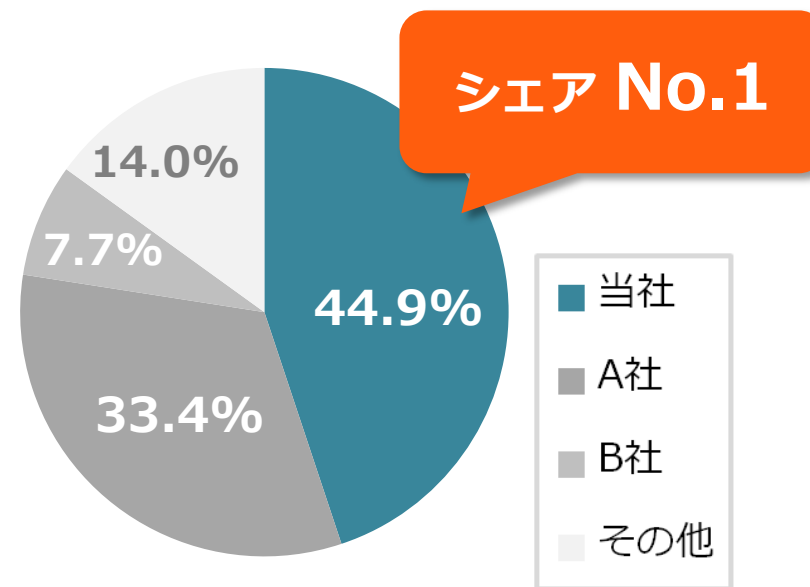


IoTガス警報器



アメリカ向け
電池式メタン検知器

家庭用ガス警報器企業別シェア



出典：富士経済「DXを実現するセキュリティ関連技術・市場の将来展望 2023」

産業用ガス警報器市場

産業の現場、オフィス、飲食店など幅広い分野で活用



作業場

建設現場



工場

飲食店



教育施設



爆発事故防止

中毒事故防止

予兆検知

品質管理

環境管理



水素ステーション

土木建築現場

業務用厨房

プラント



オフィス



Point 2
売上高 過去最高を更新

設立以来右肩上がりの成長を継続

売上高推移

2022年度 連結売上高
372億600万円

(百万円)

40,000
35,000
30,000
25,000
20,000
15,000
10,000
5,000
0

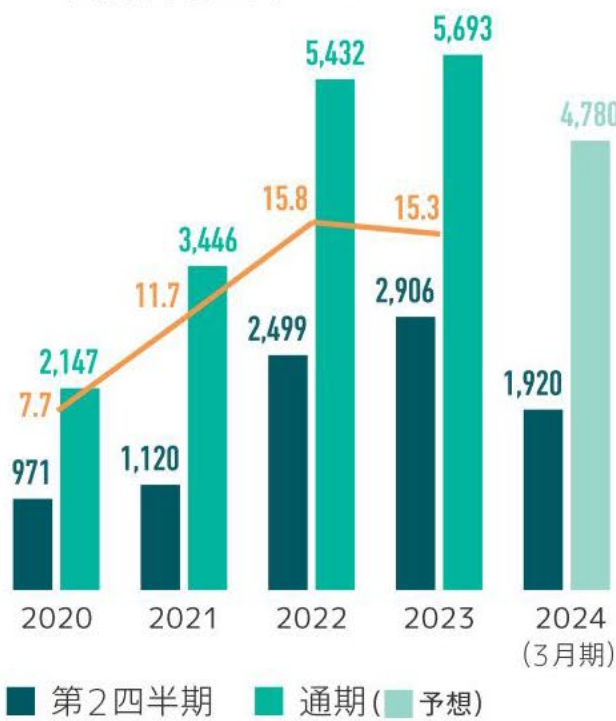
1960 1965 1970 1975 1980 1985 1990 1995 2000 2005 2010 2015 2020

業績ハイライト

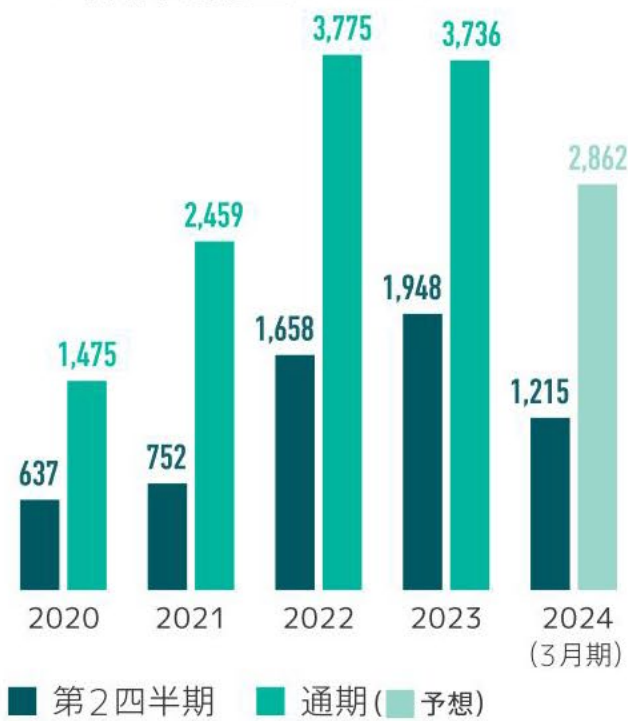
■ 売上高 (百万円)



■ 営業利益 (百万円)
— 営業利益率 (%)



■ 親会社株主に帰属する
当期純利益 (百万円)



定性目標

「新たな挑戦、新たな価値創造に取り組み、持続的な成長軌道を歩むための第一歩」と位置づけ、
「お客様に選ばれ社会に役立つ新コスモス電機グループ」を目指す

定量目標

連結売上高 **450億円以上** (最終年度)

海外売上高比率 **40%以上** (最終年度)

営業利益率 安定的に**12%以上**を確保する

成長戦略

- グローバル展開の推進
- ガスセンサの展開による
新市場の創出
- 保安の高度化やニーズの変化への対応

基盤戦略

- 生産体制とサプライチェーンの見直し
- 技術開発力の強化
- 人材育成
- 生産性の向上
- ガバナンス経営の推進
- グループ経営の強化

サステナビリティ戦略

- 安全・安心で、持続可能な社会づくりに貢献
- CO2排出量削減に取り組み、社会のカーボン量削減に貢献
- 調達から廃棄までを考慮し、持続可能な循環型の生産を目指す
- クリーンエネルギーの安全な利用に貢献
- 多様な働き方を推進し、働きがいの向上に取り組む

投資戦略

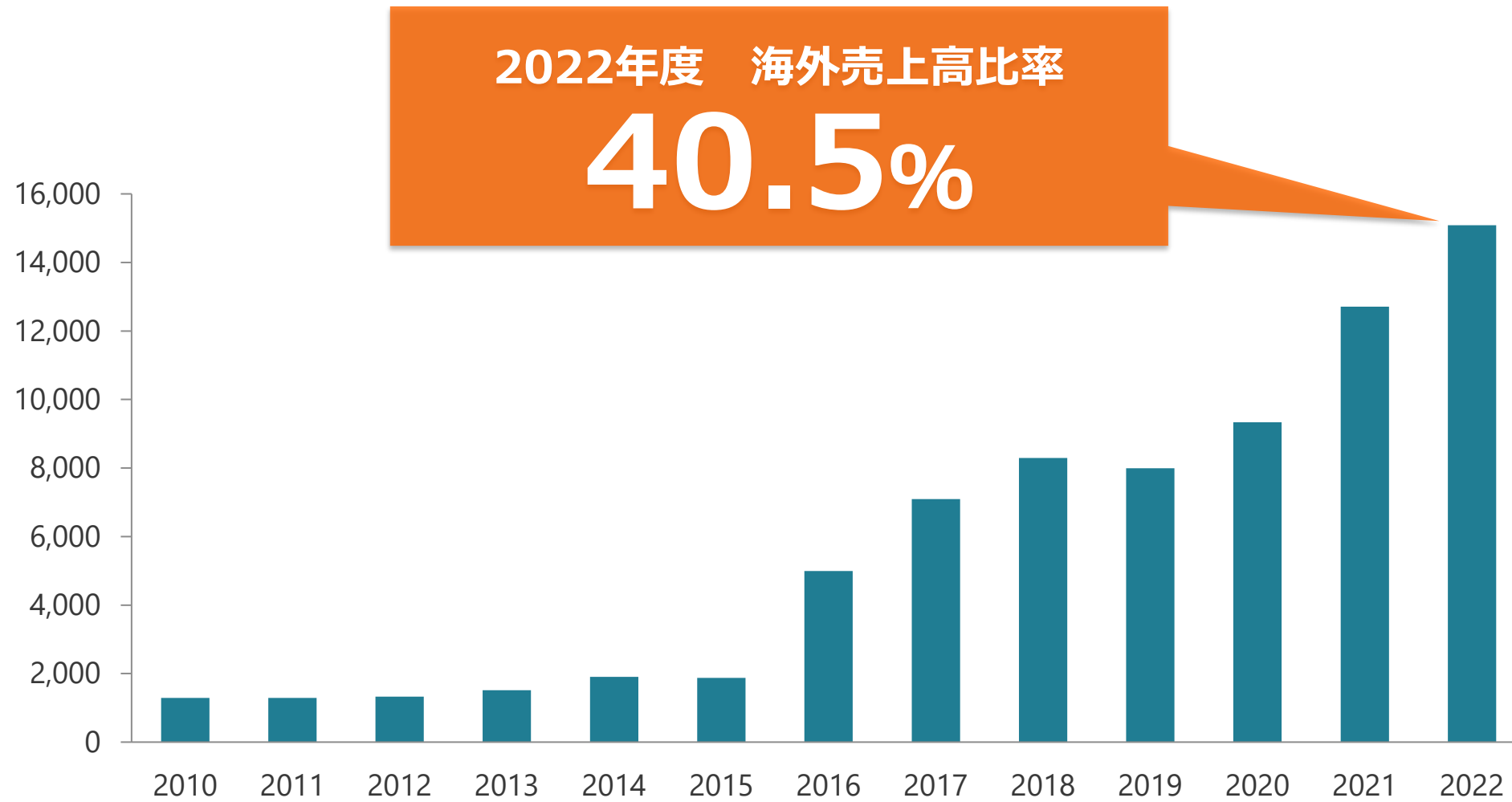
- 生産増への対応
- 成長戦略を支える新商品の開発
- 海外拠点の整備

上記を中心に、

3年間で100億円の投資を計画

当社グループ海外拠点





2010～2022年度の海外売上高の推移

Point 3

水素などのクリーンエネルギーの安全な利用に貢献

クリーンエネルギーや再生可能エネルギー分野での貢献

水素だけでなく、アンモニア検知や再生可能エネルギー分野でも貢献していきます



水素検知用の製品で、安全利用をサポート

- トヨタ「新型MIRAI」に当社の車載用水素ディテクタが採用
- 全国の水素ステーションの約8割に当社のガス検知警報装置が採用



トヨタ「新型MIRAI」採用
車載用水素ディテクタ



水素用
携帯型ガス検知器

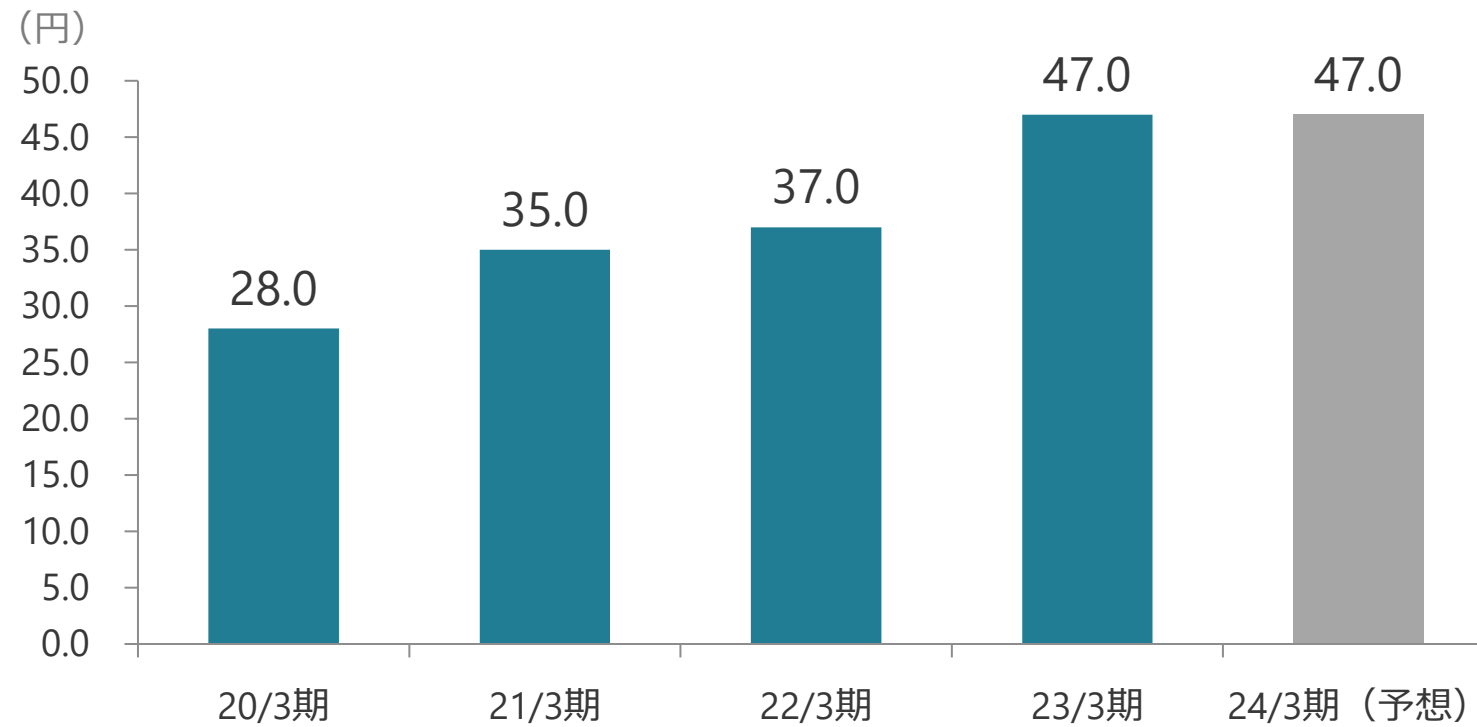


水素用 定置式ガス検知部

株主還元

株主還元

年に1回配当金での還元を実施
基本方針：安定して、継続的に配当を行うこと



トピックス

火災による死者を減らすために

ガスセンサ技術を活かして、
「火災から一人でも多くの命を救いたい」
という想いで開発



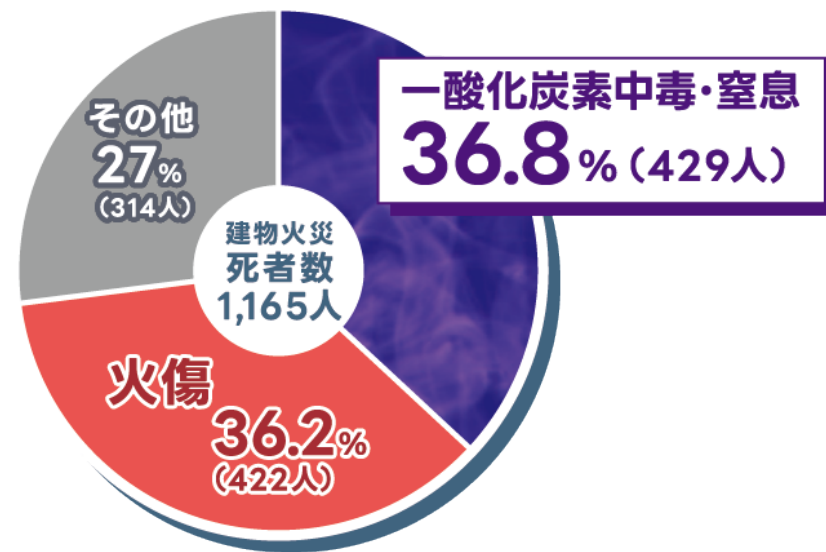
一酸化炭素検知機能付き火災警報器

 **PLUSCO**
プ ラ シ オ

火災における一酸化炭素の危険性

- 建物火災の死因で最も多いのは一酸化炭素中毒・窒息
- 一酸化炭素はわずか1%の濃度でも
1-2分の吸引で死に至る大変危険なガス
- 火災の種類によっては、
煙よりも早く一酸化炭素が発生

プラシオは
わずかな一酸化炭素を検知して
逃げ遅れを防止



※出典：消防庁「令和4年版 消防白書」（令和3年中）

プラシオ拡販のための取り組み



火災実験室PLUSCO Lab. (プラシオラボ)
開所 (2023年5月)



(株)山善と共同で「もっと早く、火災を見
つける。」プロジェクトを発足
(2023年8月)

12月にアルコール検知器によるチェック対象事業者拡大

2022年4月
道路交通法施行規則の改正で
アルコールチェック義務対象の事業者が拡大



2023年12月
拡大した事業者へも
アルコール検知器によるチェックが義務化



グループ会社 フィガロ技研製
アルコール検知器「フーゴシリーズ」

最後に

まとめ

**「世界中のガス事故をなくしたい」という
設立当初からの思い**



世界の動きに敏感に対応できる企業